



ご家族の介護の経験を経て介護職へ

家族のように一緒に過ごした方の最期を看取るという介護職の大変さの中にあるやりがいを見つけたTさんのお話を伺いました。



これまでどのような仕事をされてきましたか？

職員A（インタビュアー）



直近ではスーパーにお花を卸す仕事をしていました。
その他にも、公園や住宅の建設業や経理事務にも勤めたことがあります。

T様（インタビューー）



これまでは、介護とはまったく違うお仕事だったのですね。
なぜ介護の道に進もうと思ったのですか？

きっかけは、同級生の親友から「介護の仕事をしてみないか」と誘われたことです。
これまでも何回か誘ってくれていたのですが、最初は断っていました。
当時は建設業や事務の仕事がとても楽しく、何より私自身、認知症の祖母の介護を経験していたため、介護の大変さを知っており「自分には絶対に無理だ」と思っていたからです。
それでも介護職に進むことを決めたのは、3回目に誘われたタイミングがちょうど祖母の葬儀中で、何かの“縁”を感じたこと、そして「他の仕事にも挑戦してみたい」という思いが重なったためです。



いろいろなタイミングが重なったのですね。
ご家族の介護を経験し、大変さも分かっている状況で、仕事として介護職に対する不安とか葛藤はありましたか？

そうですね・・・正直、介護に対して凄くトラウマがありました。私が20代前半の頃、母子家庭のため一歳の子供の子育てと認知症の祖母の介護に日々追われていました。自分自身、余裕もなくつい「おばあちゃんなんかいなかったら良かったのに」とポロツと言ってしまったことがありました。
祖母はその後施設に入りましたが、一年ほどで亡くなってしまいました。
結局、傷つける言葉を言ってしまった後悔や日々の生活に追われ、施設に一度も会いに行けませんでした。この経験がトラウマとなり、介護職に対して何かしら抵抗があったように思います。





大変でしたね。子育てと介護の両立は、身体的にも精神的にもかなりきつかったと思います。それでも現在は介護職に就かれ、続けてこられたのはどういう思いからでしょうか？

最初はトラウマもあり、辞めたいと思ったことは何度もありました。ただ、利用者の方と接していく中で、自分を必要としてくれたり、頼りにされ、待っていてくれていると感じたことも多々ありました。何より利用者の方からの心からの感謝の言葉だったり、言葉を発する事がままならない人が、笑顔になる姿を見て、ここで利用者の方の最期を看取っていくことが祖母への恩返しになるのではないかと考えています。



様々な経験をされてきた中で、それでも続けてこられた理由が凄く伝わってきました。辛さや迷いがありながらも、利用者さん一人ひとりときちんと向き合っていたんですね。Tさんのお話を聞いていると、介護という仕事が単なる仕事以上の存在になっているように感じました。これまでの経験を通して、この仕事の一番のやりがいとはどんなところだと感じていますか？

この仕事のやりがいは、介護職員は家族以外の存在でありながら、家族に近い関係を築き、その方の人生の最期を看取することができることだと思います。

現在は、病院ではなく施設で最期を迎えられる方も多く、長い時間を共に過ごしてきたからこそ、看取りの瞬間は決して楽ではありません。それでも、その方の人生の最期に寄り添えることは、この仕事でしか得られないやりがいだと感じています。

また、この仕事は辛いことばかりではありません。私にとっては、テレビを見るよりもずっと面白く、楽しい瞬間もたくさんあります。今日も利用者さん同士の漫才のようなやり取りに、思わず笑ってしまいました 😊



利用者の方の人生の最期に寄り添え、日々の関わりの中で笑い合える瞬間もある。介護の仕事には、人と深く関われる大きな魅力があります。最後に、これから介護職を目指す方へメッセージをお願いします。

私も未経験から介護の仕事を始めましたが、今は本当に良かったと感じています。何も知らなかったからこそ見えてきたことがたくさんありました。子育てを終えた方、短時間でも働きたい方、人の役に立ちたいという思いをお持ちの方、大歓迎です。ぜひ一度足を運んでいただき、介護の仕事に触れてみませんか。

